

繪首  
入書

世界都路

歐羅巴洲

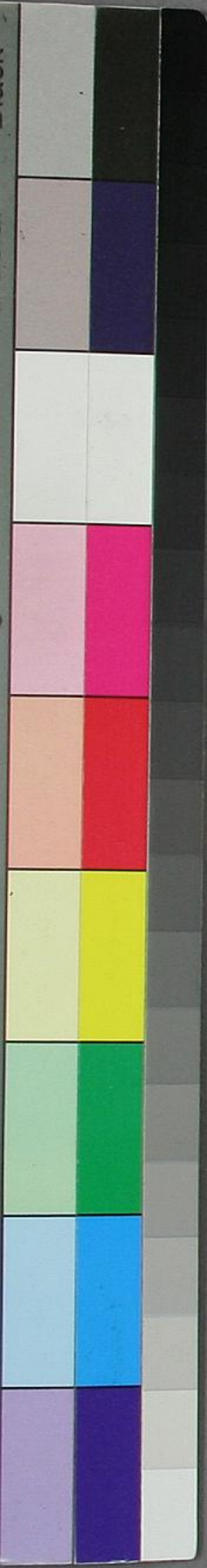
三

柳田文庫

文庫11

A1837

3



歐羅巴洲全圖

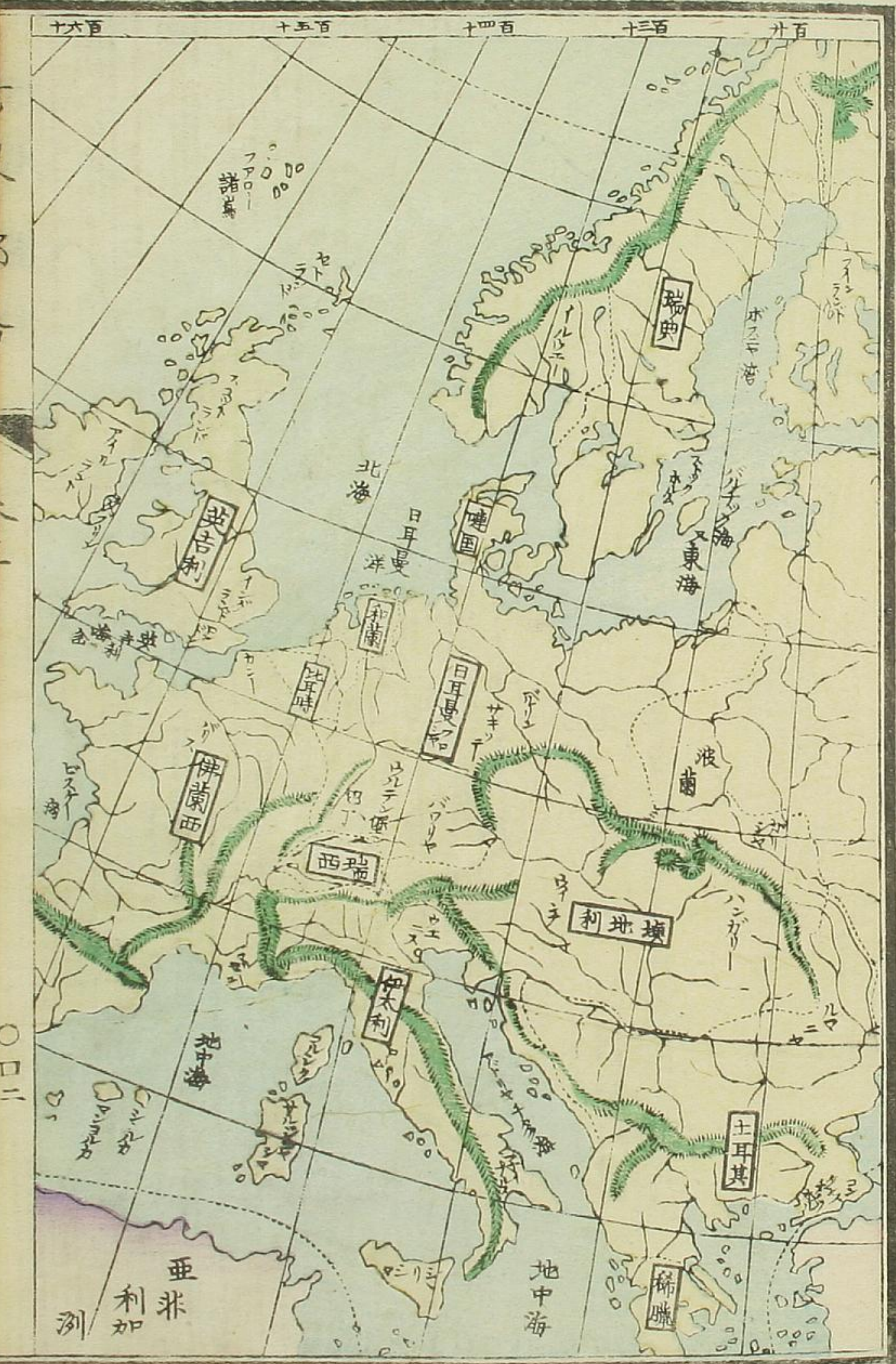
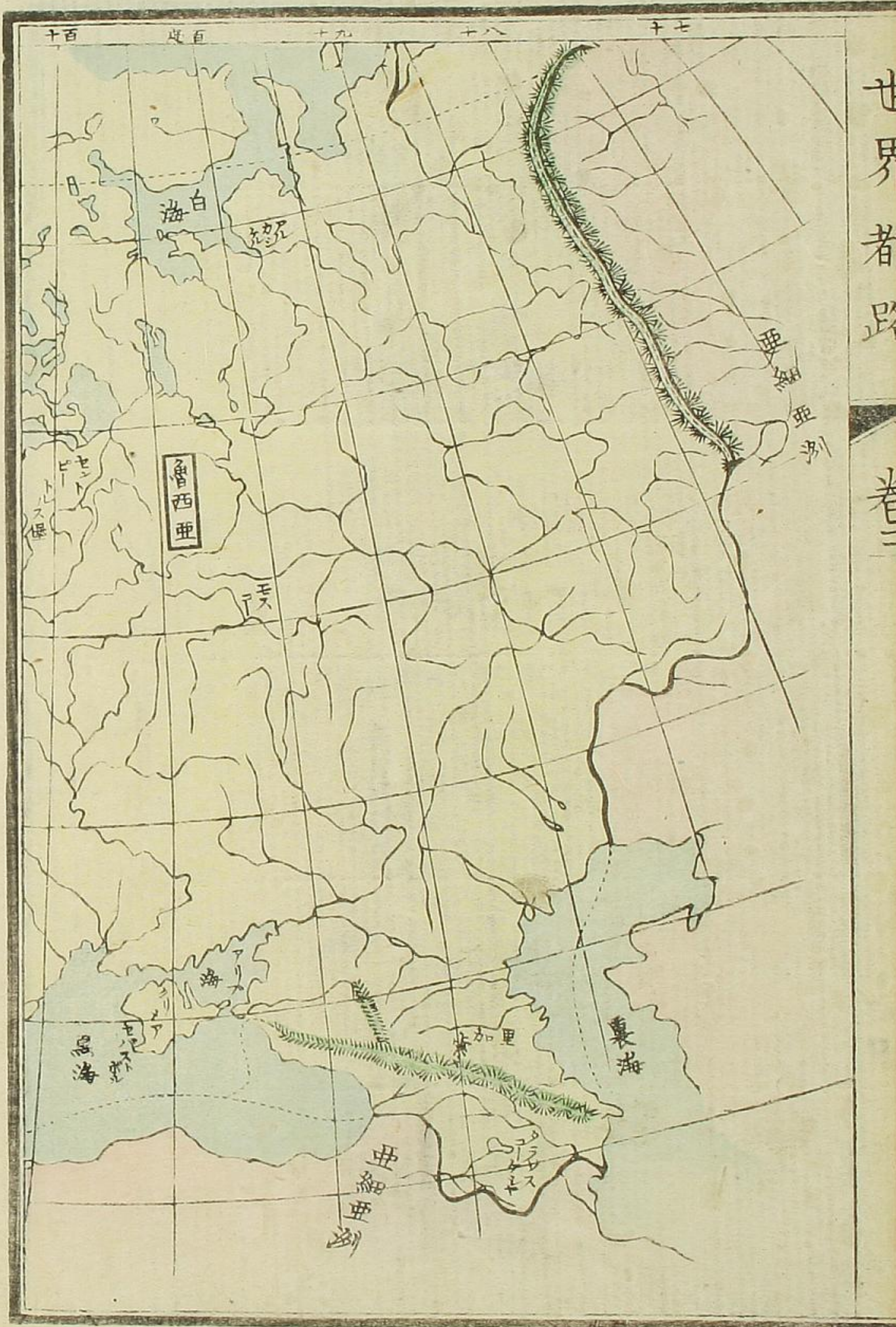
卷之三

〇四

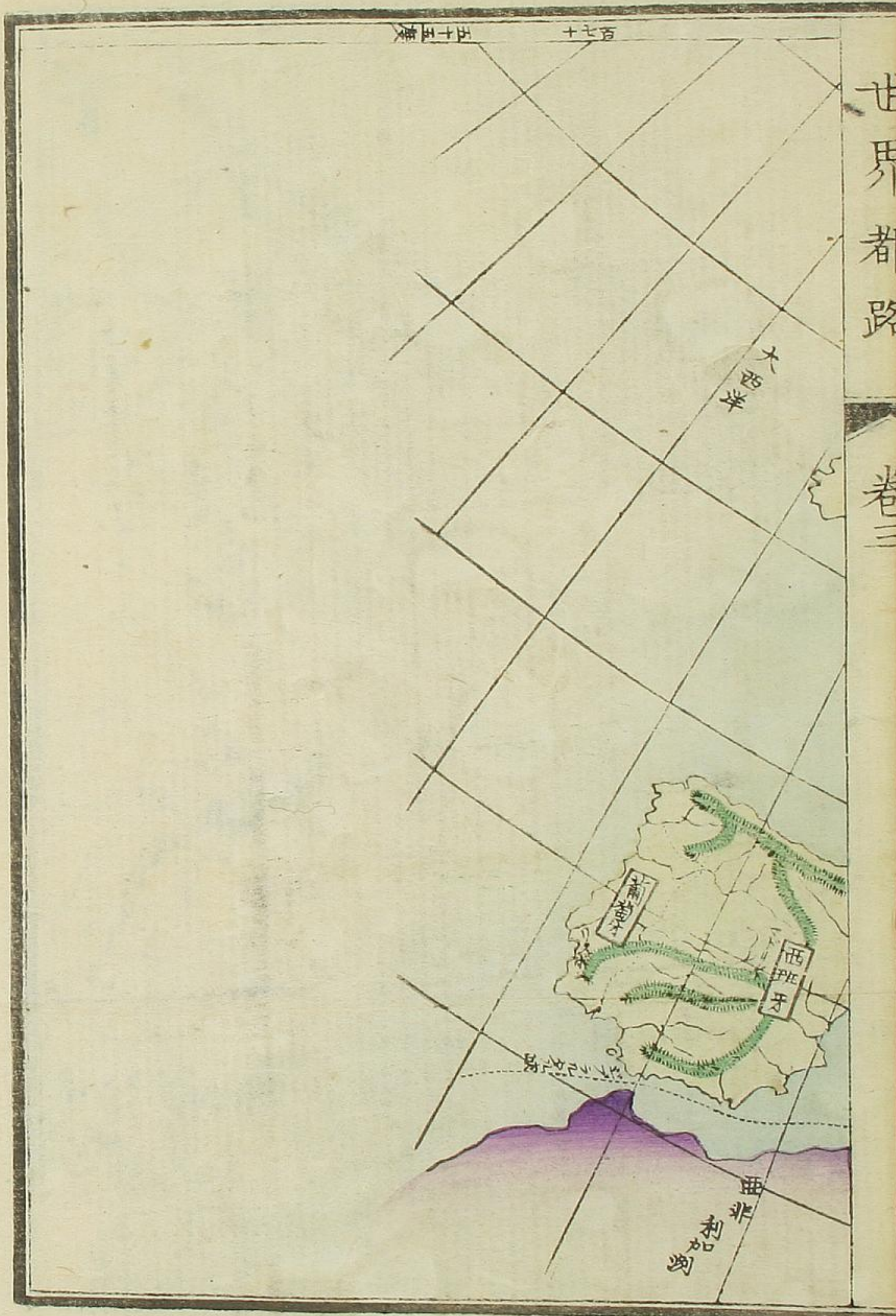
文庫 11  
A1837  
3

柳田泉

48-7740



〇口川



○歐羅巴洲の五大

洲中大洋洲の最も

小なる者ありて世

界陸地の十四分一

小居より長サ東北

より西南小算へて

大略千三百九十里

小過ぎ其の中魯西

亜の領分小属する

者半小過々然と共

# 歐羅巴洲

文明の域と世界に

峯々如西洋諸島大

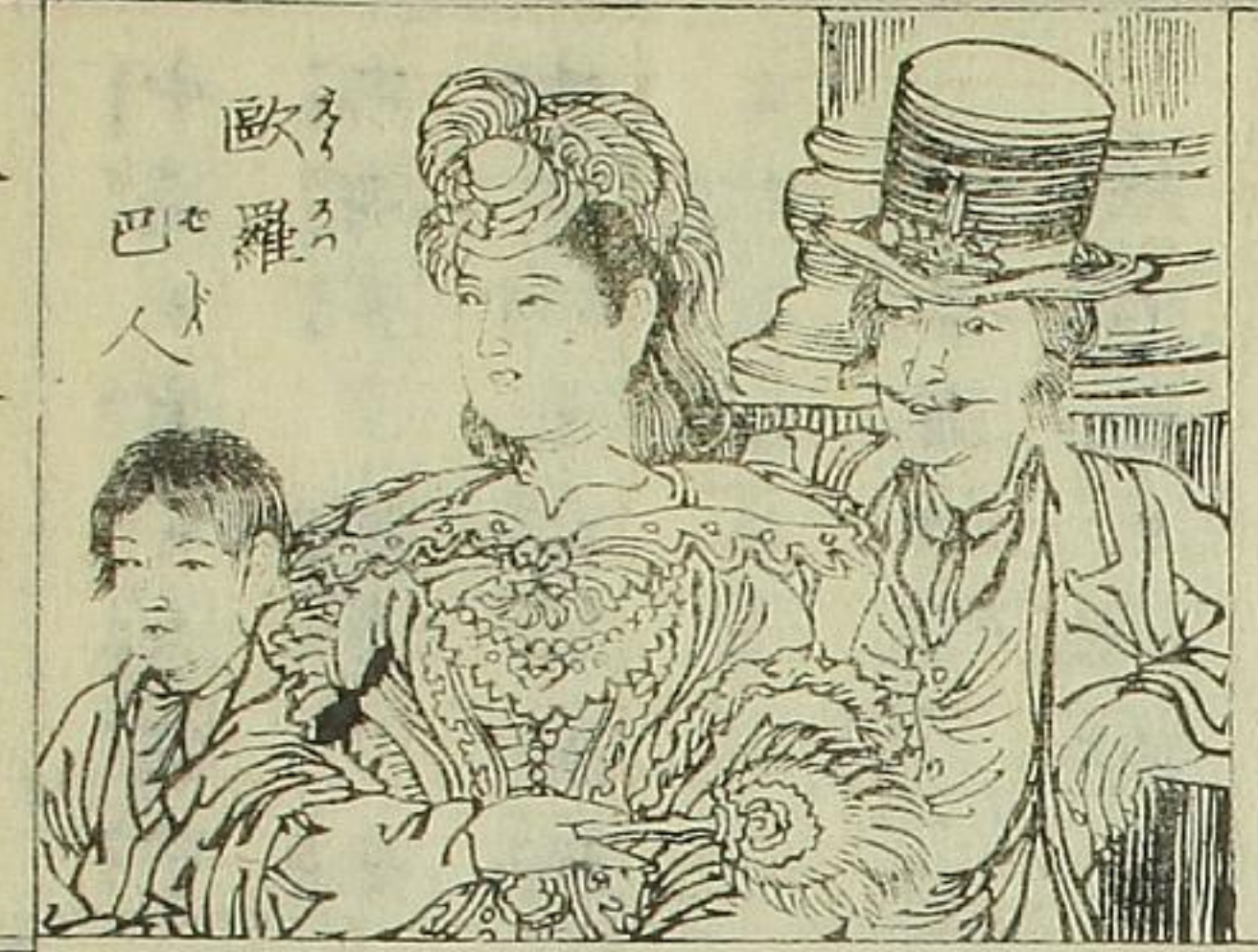
小形おありて其の勢

如盛なり衰ふ成行を

人口二億六千五百四十一萬餘  
 全世界の人口四分の一を有す  
 調密より北の方  
 北氷洋を遶り西  
 大西洋の面より南  
 地中海の濱より半  
 島突出し日巴拉大  
 の海峡を隔て亞非

浮世より列ぶ常なる  
 きごと。外は洲も競ふ  
 程の并化全き歐羅  
 巴東亞細亞も連りて  
 南より往く地中海

利加洲と相望と東  
 の烏拉山脈と裏海  
 とを界として亞細  
 亞洲も連り黒海地



亞非利加洲もさしむ  
 北氷洋も界として  
 西の限は亞太脈海  
 四十九國は第一に指  
 折る魚も西亞の境界

中海の濱を大洲中  
内海多し許多の称  
呼を以て之を區別  
を則ち左あり

○白海トカイ

北氷洋の一派也

ト魯西亞の北

部あり

○波羅的海トカイ

大西洋の一派也

歐洲二部のその一部

中北亞細亞ト蔓延

地球トあり

此地ト係る里方

のト大凡八萬八千餘

ト瑞典ト魯西

亞の間といふ

○地中海トカイ

當洲の西南ト接

ト世界の中内海の

大トある者ト

ト表面十四万方

里ト過ると云ふ

○亞得亞海

地中海の一派也

人口七千四百萬中

ト大鎮四十箇所ト大

都ト彼得堡トト伯德

禄帝トトある君新ト

建る首府トト云々

イタリヤの東  
に回ると云ふ

○馬ヤラ海

地中海と黒海

の間といふ

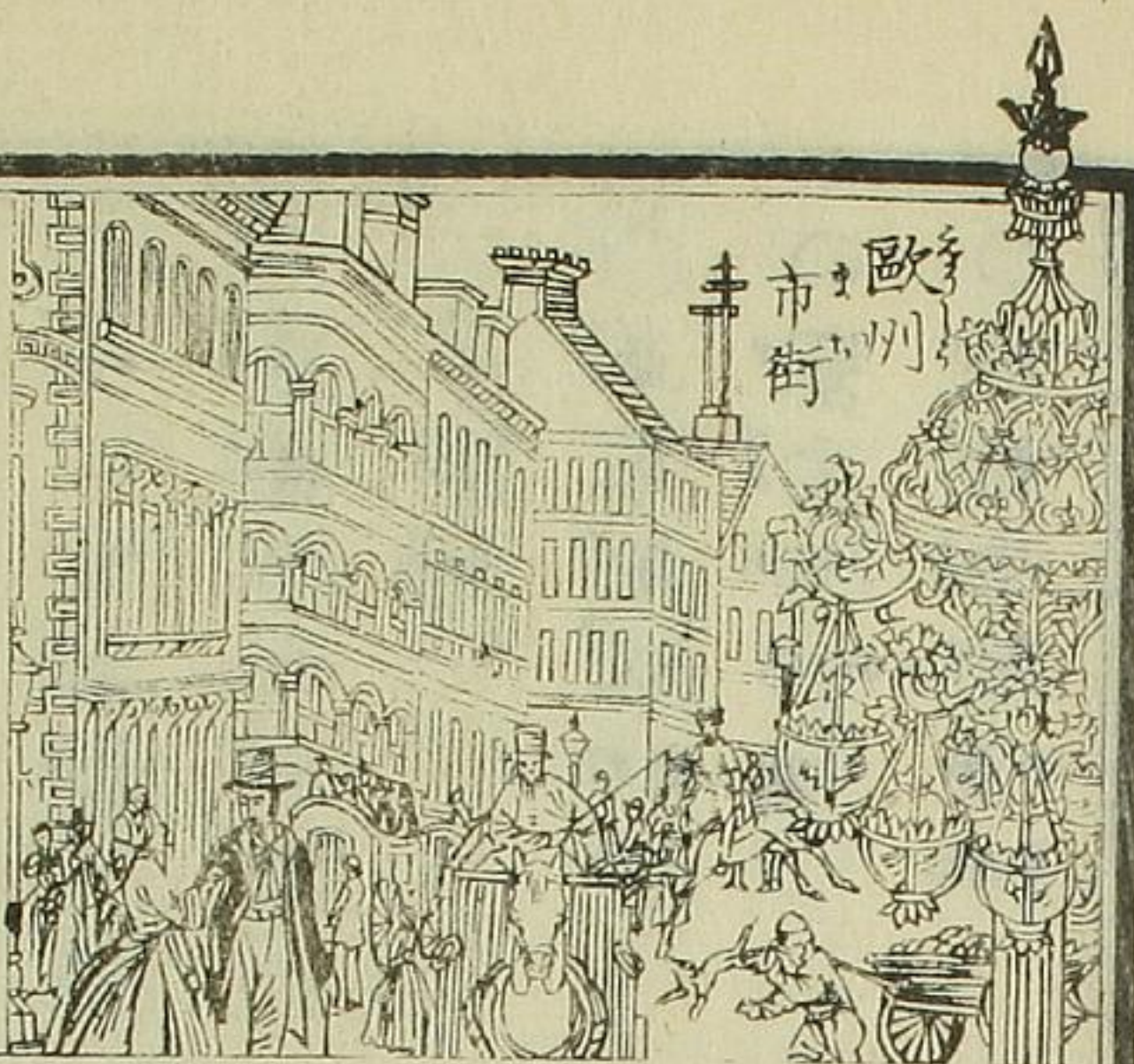
○黒海

亞細亞洲に接す

魯西亞澳地利土

耳其小濱と

○北海



英吉利と荷蘭那

威の間に名く

○日耳曼洋

北海の南部を云

酷き土地ありて其

の煙りの立登りたる

を移すむおとせ

順多紀大府令

南千手逆氣車

道程一百七十里一日

達馬斯高魚

旧都の一大府新都

法皇祭華あり

元々ありて二百年

- 全洲山脈
- 巴幹 部中其
- 亞尔伯 部中西
- 全洲第一の高山
- 小一と其最も高き者一千五百七十餘丈
- 亞卑尼奴 初太
- 塞孟士 西佛蘭
- 比利牛斯 の佛界

伐虜暴は風俗を洗  
 ひ流して今日の政道  
 軍備兵を去り内を  
 ちりて外を攻め西海  
 諸小のころからぞ世

- 塞拉尼窩大 部南
- 加白的 日耳曼
- 斯干的尼威 典瑞
- 烏拉南 東界ヨリ
- 高加索 小連ス
- 人種一般高加索種
- 小属と雖も其三
- 分部の一は蒙古種
- 小属と人民あり
- 教法は全洲の人民

界の國小立双頭  
 中就身は積志を地  
 球を覆ふ勢ひの  
 風小靡く者多し南  
 子回る希羅國それ



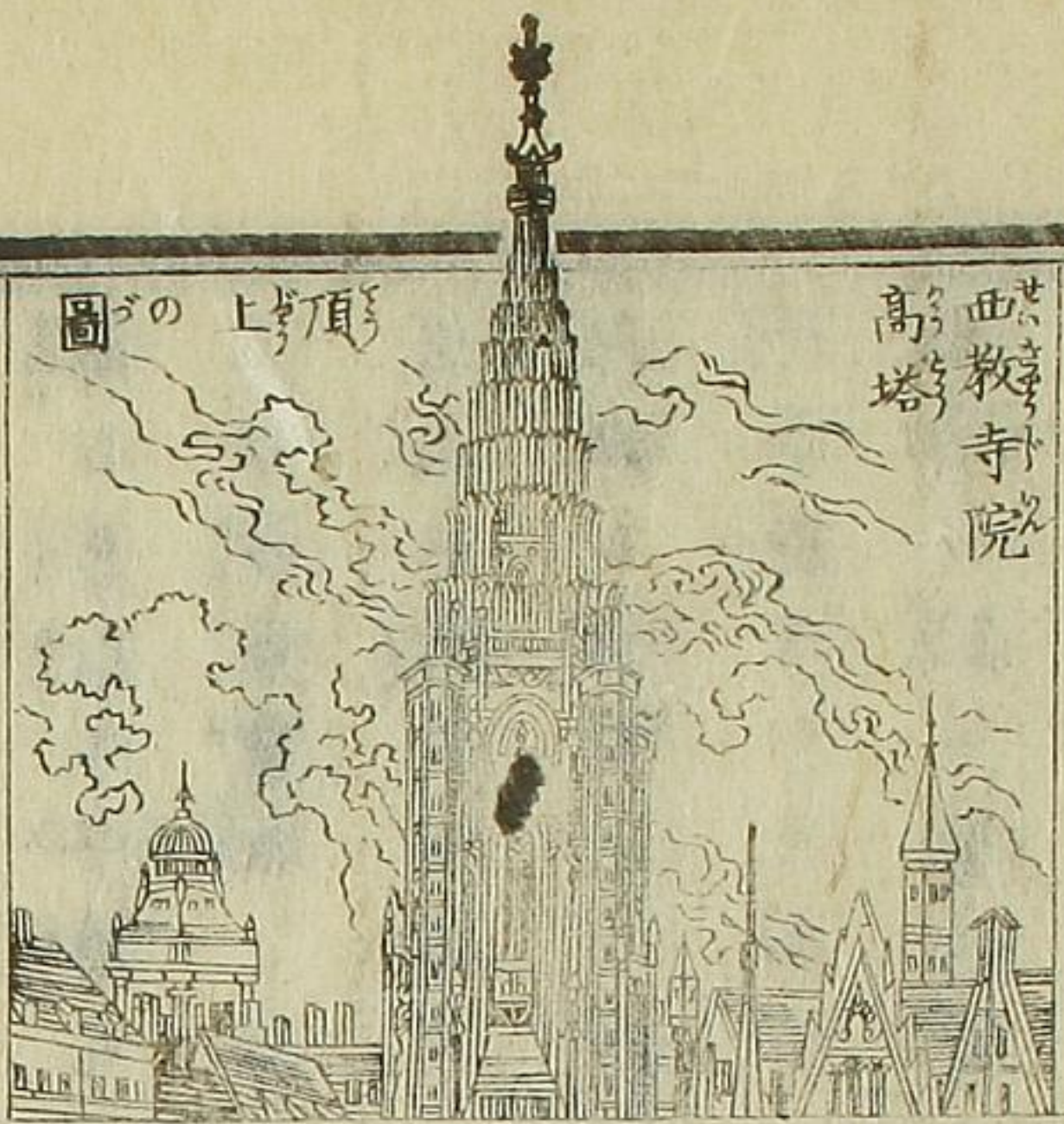
一般に耶蘇教を奉  
 ぜり偶他教を奉ぜ  
 る者百分の四あり  
 ○耶蘇教三種あり  
 此教の其開祖以來  
 教導の法式より  
 數百年間既に宗徒  
 黨を爲すの勢以て  
 生ト八百餘年を経  
 下東西二派に分れ

都ある。雅典より。昔盛  
 代の安南。隣  
 廣き回領の。隣  
 及め土耳其其亞  
 細亞歐州境目の左

三百五十餘年前か  
 西部又二ツに分る  
 即ち舊新の二派と  
 ○耶蘇舊教  
 又天主教とも名く  
 南部の盛みして中  
 央の雜色り又南亞  
 米利加洲の蔓延と  
 り往時日本へ來り  
 ても又是あり最も

有る。跨る帝國の。左  
 都と。之。孔士  
 城府下の人民八十萬  
 華美を極め。王  
 宮に。内。數百。員

弊害多き宗門あり  
と云ふ



高塔  
西教寺院  
の頂上

○耶蘇新教  
英國及び日耳曼列

女を尊まき桃李の色  
の婀娜く媚を惑る  
倭臣ふをむ并化の  
道暗き君れ心随  
ひく擅ある國政の暴

國小寂も盛なり  
和蘭瑞西等此宗門  
小歸依し又北亞米  
利加洲も盛あり

○希臘教  
魯西亞部中一般盛  
小行くと又土耳其  
希臘の人民此宗派  
小属する者多し  
○猶太教

き浪風たちよらふ  
私きく安き期もは  
塙地利い土耳其より  
手界ひく正統の帝  
位のま著めく古く

此宗門耶蘇教先  
 だもて往時猶太國  
 洲の内地行は國  
 亡びて其人民歐羅  
 巴亞米利加來り  
 住ひより今此  
 地此教と奉ぞる  
 あり此他の耶蘇教  
 の種属一て宗名  
 と異一全洲各國

獨逸と移る於る文物  
 禮樂善人ありて數十  
 王侯朝拜の袖を列  
 移つ冠を傾く運や疾  
 風消るるとたら燈火

有り  
 小行こ者許多多

○回教マホメタ  
 此教の亞細亞洲支  
 那及び印度より西  
 の諸國に盛あり故  
 小亞細亞の西を回  
 部の國と稱せり  
 歐土の土耳其  
 の人民此教を奉む

の油を増え近くそ  
 威勢輝く吉事  
 丁子既を各國とあ  
 ぶる百貨物を産よ互に  
 の利益を多くとを都

るのそと耳其の其  
 人種蒙古種と高加  
 索の兩種混交し又  
 其版圖も亞細亞と  
 歐羅巴の兩洲に接  
 し中間不在るが故  
 小教法も其中間に  
 在る所の回教を奉  
 ぜらあるべし  
 歐土全洲各國

府維也納の城内を家  
 居る層々四層樓五  
 層樓まで築建する一  
 家上下の列位を女子  
 院とて又その女官

○魯西亞  
 政體君主專治  
 魯西亞往古の蠻野  
 の民族小して原由  
 詳らから世紀元  
 八百年代の央に至  
 り連國の人ロリグ  
 かる者諸方を侵し  
 掠めて當國の大半  
 と押領したり紀元

を精ひく。花を人々の  
 の理ひあり。狩も多し  
 北の方文武少あり  
 昔魯士國治る層々  
 礼を忘るる上下の

八百八十三年「オレ  
 び」と云る人「コリ  
 び」を殺して其國を奪  
 ひ「コリ」の子「イゴ  
 び」位と嗣ぎたるゆ  
 其弟「ウラ」が「ヒ  
 る」者兄を殺して國  
 位に即き希臘帝弟  
 二世「コ」の妹と  
 娶り始めて「那蘇」の法

心一致し。常は百戦  
 百勝の智略を盡す  
 腹囊近以開く兵端  
 小。填地利を戦ひく。七  
 日。東のる。小勝利を

教を奉じてより國  
 力次第に強盛を致  
 一其公と大公と稱  
 せり十五年「ラ  
 び」之に死して後  
 其子互に小位を争  
 ひ遂に一國の内亂  
 を生じ干戈止む時  
 かく二百年の星霜  
 を經り此時に當

得る。救國を併  
 せし。の。その。及の。  
 明治三年午の秋雷  
 名。東。く。佛。名。東。西。く。  
 兵を接へく。大勝利。

りて亜細亞の蒙古  
 小侵さ其苛政の  
 窮のら多し事九二  
 百五十年其後蒙古  
 の種族の内乱と生  
 トモンジスカンの  
 外孫イモルラン  
 ある者兵を擧て諸  
 方と征し遂に魯西  
 亞の在る所の蒙古

佛の帝を生捕て色  
 理斯都城を陥て勢  
 ひしを統し海を倒  
 して威を示めし近  
 傍日耳曼列國は

と攻て之を勝ち蒙  
 古の威勢復び振り  
 せ千四百六十二年  
 モスコの府の君第  
 三世イワン位に即  
 てより漸く強盛の  
 勢ひをかし蒙古と  
 戦ひて屢勝ち千四  
 百八十年に至つて  
 尽く之を放逐し蒙

のぞく  
 御ふ依く新帝の位  
 小就し大事業あり  
 歐洲ありて強ふあり  
 と怖恐を又むる款  
 ちるより都府比



古の跡魯の境内ふ  
絶より

○第三世イワン  
○ワシリイワンの太子

耳林の人数七十万  
のふつと海陸軍に  
数を増し学校法院  
達ありび兵士調練急  
らま生流の従事勉

○第四世イワン  
幼冲くして才幹  
あり第三世の業  
と継ぎ近傍の土  
地と併せ名聲日  
々高し此時亞  
細亞北方シベリ  
ヤの地と版圖を  
併せカザルの尊  
号と定めり

強き者前をあらそ  
り此地は其の日耳曼  
列侯自ら共和  
邦所謂獨逸連合の  
数を合さし小國に

○フードルイワンの  
 此君暗弱にして  
 國事不堪へを千  
 五百九十八年死  
 して子あり可り  
 クの後胤男子の  
 血統是れ絶たり  
 始めロリクの家  
 と起してより年  
 と経ること七百

小部は過半普魯  
 社領下は房はるる國  
 民は男女の別ちなく文  
 の多きを知らざる  
 千人中小部を知らざる

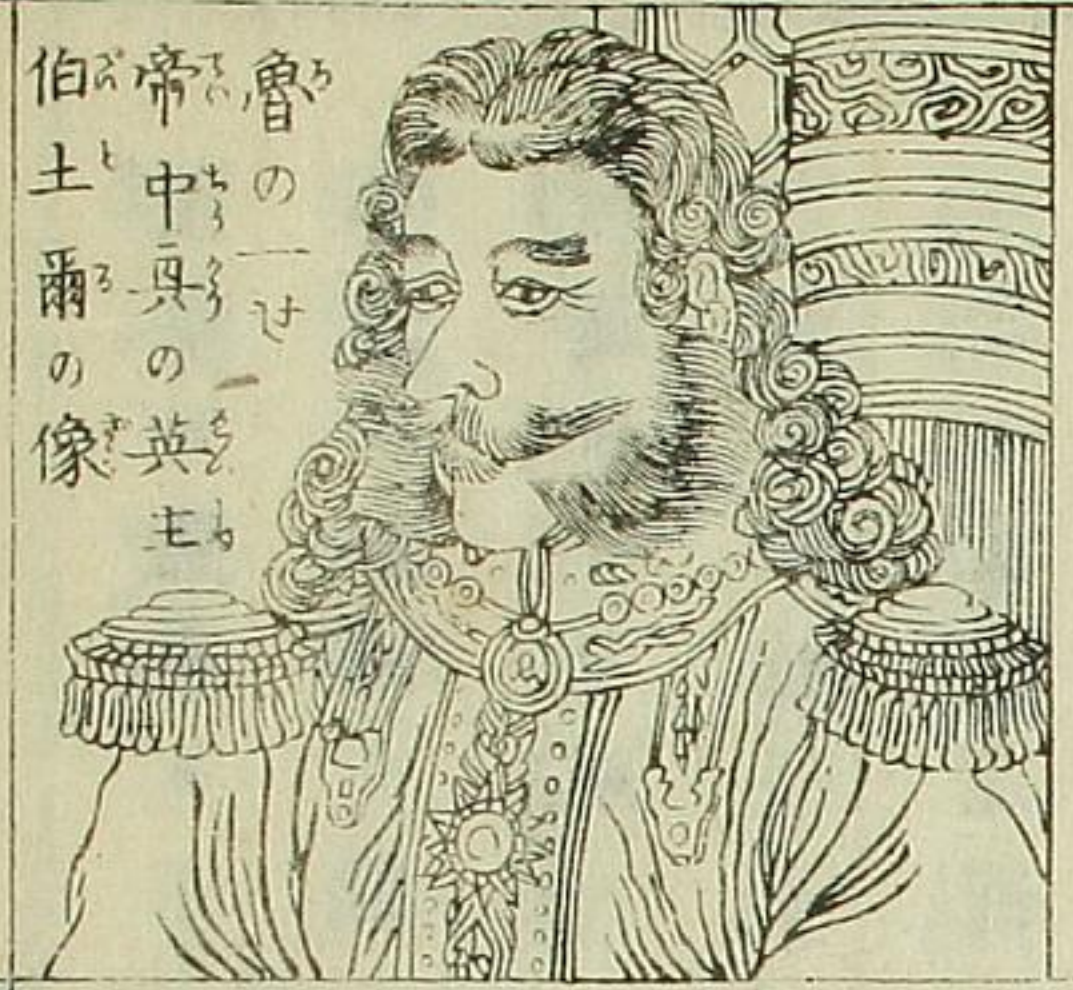
余年世を累ること  
 と五十六代之  
 ○カエルロマ  
 魯人謀つて此君  
 と立ち羅馬ノ  
 の家系の女子の  
 血統を以て國祖  
 ロリクの後胤小  
 係り即ち現今の  
 魯西亞帝の宗祖

文字を著るは後  
 千人中五六十能耕  
 して兵精し。その行ひ  
 の餘力少くハツの圃の  
 琴瑟曲歌舞水原を



あり  
 ○アレキス 太  
 ○フュードルの太子  
 ○ペイトル一世帝  
 千六百七十二年  
 フュードル死し  
 子あり遺命し  
 其弟ペイトルに  
 位を傳へり其性  
 猛烈とよども天

好めどもえ。懶惰てくま  
 者あり。列侯共和の  
 國あり。都府あり。體  
 ど大木の書院合せて  
 五十箇所城内統士の



魯の一世  
 帝の中  
 伯土の  
 爾の像

果敢断の英才と  
 抱きて一時小國  
 内の舊弊を改革  
 海陸軍を全備  
 交易を弘く

室多々。數十萬卷を  
 毎小蔵め。行小諸雜  
 書を讀ん。乞へ。何  
 人小拘ら。ぎ。て。由小  
 へれ。諸。ま。ま。る。國の。提

文学を隆盛し  
 國富と兵強く其  
 版圖現今の廣大  
 小至るも悉く皆  
 此帝の基業に因  
 てあり  
 ○カタリナ女帝  
 先帝の后あり太  
 子アレキシ謀反  
 せらるる千七

あり。  
 西小界て佛系西  
 中具三世の帝  
 峯も高き拿破倫  
 一世は西覇業を次ぐ。

百十八年既小獄  
 中死しとを  
 以て即位せり是  
 先帝の譲り野  
 もり先帝崩せり  
 の後其業を継  
 き益国事を理  
 海陸軍を盛大  
 一各國と和して  
 貿易を盛んせ

大政復古創建の欲  
 一も文の眼  
 奪志熾  
 盛る巴里斯府八十

○第二世ペイトル  
ペイトル帝の孫  
幼冲して痘瘡を  
罹り死す

○アンナ女帝  
第一世ペイトル  
帝の異母兄イワ  
シの女あり此時  
亞細亞の版圖次  
第に蚕食す

六府の首府ありて壯

麗花を以ての善きなり。

文あり武ある諸省校

城内帝居の結構も。

支那秦の阿房宮四

○第五世イワン帝

先帝の  
姪孫  
王統の五世私系  
ハ七世あり

○エリサベス女帝  
第一世ペイトル  
の女あり幼帝と  
廢し自立して帝  
と稱す此時諸府  
に大學校と設て

季に花檀ふ咲かる。

葦の園を馥都と。

風待友の木下新吹井

能水の立登り雲呼

就乃昇天。斯やを

文化次第小隆盛  
小赴けり

○第三世ペイトル

○第二世カタリナ

三世ペイトルの  
皇妃小く位小  
即くカタリは君  
夫と毒殺するの  
大罪を犯そとい  
へども治国の根

仰ぐ勢ひの承さるる慕

まて普魯士を討亡

せん狗巧く以て西洋

一千七百七十の年

秋より純事を言

ありて此時文武

益々整ひ歐洲大

國の列小加えり

各國是と恐まど

る者あり

○第一世ポール

先帝の太子即位

の際佛蘭西騷乱

の時小當り千七

百九十九年魯國

無き喧嘩仕掛の儀

論より大戦争をう

けき普魯社日耳曼

全國と兵を交す

後悔いその事さるる

○アレキサンドル  
先帝の太子あり  
千八百十二年佛  
蘭西一世帝ナポ  
レオン五十萬の  
大軍を卒ひて其

合し佛と戦ひて  
其軍略と逞うし  
英才世界小夷り

歐羅巴諸國と連  
合し佛と戦ひて

足並の乱れ軍の級お  
り果る帝を捕ま  
終ふ巴理斯の筑城も  
其和睦の傍ひり  
領地を裂き西に

○第一世ニコラー  
ス先帝の弟あり  
千八百五十三年  
第七月魯の大軍

大いに兵威を折  
かきしりと世に  
知る所あり

攻入り魯國得意  
の策略小陥入り

舊都モスコフ

らに数多の金をと款  
國は後々共和政治  
易昇る旭も黄昏ふ  
沈む波間の水は泡  
浮びて出る曙は待宵

土耳其を攻むる  
 小英佛の西政府  
 その禍は自國に  
 及んとすを怖と  
 王土其を助け

女帝  
 ベイシテ帝后  
 カタリナ



の夢や踏ぐは并佛  
 日耳曼列國は中  
 捷する瑞西小はあが  
 共和政民小教の道届  
 手國り報ゆる生つ

数年の戦争と成  
 たり是と世ふセ

バストボ止の戦  
 争と云ふ

○第二世アレキ帝  
 千八百五十六年  
 第三月先帝死  
 太子位に即き始  
 めて英佛土の三  
 國と和と結び千

この年の急をそ年を  
 強ひ候り少款とるて  
 侮どしとて怪志めさ  
 るる大國は目少ん  
 作する智仁勇義備

八百五十八年より以降二年の内、  
 小満洲の地をとり、  
 黒龍江の近傍、  
 尽く魯の版圖、  
 歸りたり。  
 ○土耳其古トルコ曼  
 政體君主專治  
 土耳其の本鞆韃靼種  
 小多曼人種

の徳と知れきなり。  
 比耳尼都西ふりて  
 南の方へ伊右里の國  
 の地勢の細長く九都  
 に分ちし。少のそは

と云ふ回部の大國  
 ふして其地西中東  
 の三土小分つ西土  
 の歐羅巴界内小  
 り中土東七の亜細  
 亜界内小在り古時  
 の皆羅馬の東境に  
 土耳其人古の今の  
 伊犁の地小在り回  
 教と奉じて展居と

一部ある羅馬領往古  
 教主法王の自主の土  
 とく名ん高し。近  
 領地衰へて三百二十  
 寺院盡く破れし

西小轉ト今の中土  
小居る其後種族漸  
く繁盛して千二百  
九十九年其酋長阿  
多曼兵を發して買  
諾回國を攻奪以て  
其國を阿多曼スレ  
イキと云ふとの孫  
默拉徳の代小至り  
日益強盛小して現

を生。新傾きて小蟹  
の網を結べる結縁也。  
聖伯多祿殿堂も美  
麗光彩觀る者純。  
目を射るもうるその

今の東土の諸部を  
得たり次を近傍を  
蠻食を佛國日耳曼  
嘗て兵六万を以て  
攻る小皆利を失ふ  
て去る千三百年間  
土王海峽を渡りて  
東羅馬を伐つ小敵  
の一將戰場小卧し  
土王小近づくを計

他の名所靈場者國  
此中に勝きそ氣候  
よく歐羅巴洲才可  
樂土と傳ふ古事此。  
今より歳を沙茅尼



起て短刀をもて  
 王の中心を刺し其  
 子巴牙骨海を渡り  
 て仇を復し一万人  
 と虜として尽く之  
 と殺し其後蒙古來  
 りて侵す小土軍敗  
 くと巴牙骨虜とあ  
 ら後小摩拉多ある  
 者復奮ひ起りて東

亞三百七十餘年前  
 亞美利加洲を以て  
 可倫波といふ人  
 誕生乃地は古路あり  
 首府大城の佛羅

羅馬境土過半を侵  
 し其子馬何羨徳嗣  
 せ尤も雄しく四百  
 五十二年東羅馬と  
 滅しと君士但丁城



稜薩羅馬あつて都  
 あり。全國南面地中海  
 海に浮ぶる大島の沙  
 茅尼亞島なるは小次  
 可身西加路の佛羅乃

東部  
 路

三

〇廿二

と取り國の大都會  
 と一東中西の三土  
 逐々全く統轄し歸  
 その後幅員の廣さ  
 幾羅馬全國の盛ん  
 あら小比とべし其  
 兵と用ゆる屠戮  
 殘虐にして刑威を  
 尚之賦税の取立酷  
 一き小過さう故あ

近世得たる地あり。  
 彼一世帝拿破倫誕  
 生地と名高し。  
 可耳西よりも方角  
 譯字に通ふ西班牙併

千五百二十余年後  
 の嗣王多く暗昧の  
 君おし王暴政甚し  
 きあより属國反さ  
 内乱屢生せ塞黎慕  
 王位と嗣ぐあ至り  
 千八百三年始め  
 巴札の叛兵と戦ひ  
 了勝る舊領と復せ  
 と金に幾程おかく

に隣り大國の  
 象んと高し  
 風を建し如く  
 内小部馬德里地  
 城内控めて廣く

巴札又叛くふより  
 塞黎慕王親征して  
 流失不中りて死を  
 此頃南境の希獵士  
 國不反きて獨立せ  
 り益一當國衰ふと  
 と巴不百餘年北隣  
 魯西亞の為不攻伐  
 ること毎戦幸ひ  
 不英佛の救助不よ

王宮の外目と留く。  
 銀と金物とある季  
 より。銀ある葡萄の金  
 生り。善王争ふもの  
 あり。之れ来世ある

りて其國と存まら  
 を得たり  
 ○ 填地利又東國  
 政體君民共治  
 歐洲の五大國の一  
 あり古く獨逸又日  
 耳曼と總名を此地  
 往古勒西亞諸カ加  
 巴訥尼亞等の國不  
 して羅馬之を征服

名は國の控へ末終よ。  
 礼を慚る人ご後叙  
 寐衣文一を並遊び  
 常り馬駟牛闘せ  
 琴三弦や舞踊り浮

其後北狄の據所と  
 あり紀元八百年  
 間佛蘭西其地を取  
 て別部と屯千二百  
 七十三年日耳曼各  
 部羅爾德福一世と  
 推立て王と屯阿爾  
 麥王小至り匈牙利  
 女主を嫁り國を合  
 して數千里を益し

たる藝より身をこま  
 きて國事文武純  
 學問を勤る者の稀  
 ありれど皇の衰微  
 近間ある似寄れ城

遂小大國とある千  
 五百十九年國內乱  
 る時西班牙王查  
 理第五日耳曼諸部  
 の招き小依りて此  
 土小來りて日耳曼  
 王より佛國來つて  
 攻る小玉戰ひて之  
 を破り佛王を禽小  
 佛人金を以て之

の葡萄牙首府カス  
 本も王城といふに甲  
 斐なき人出のむり  
 勤る一航海の道  
 進ませば後戻りなき

と贖ふが故に乃ち  
 放ち還せり查理第  
 五殺し其弟位を嗣  
 き以太里の北境と  
 併せ羅馬城を陥入  
 千七百年日耳曼諸  
 部皆自立して王と  
 稱す此小従り當國  
 奧地利亞と稱して  
 復日耳曼と稱せり



- 羅爾徳 千二百七十二年
- 阿爾交 千三百
- 顯理七世 千三百八年
- 查理斯四世 千三百五十六年

の船に故郷小遊春  
 車をともす終る事  
 土地の名産葡萄酒  
 小酔し眠るに夢心  
 外より響く大炮の音

小遊春醒ぬべ  
 此カス本の湊より遥  
 放き北の方敷に  
 此小右左及小見家  
 前名

- シツスモンド 千四百間
- 阿爾突二世 八十年
- マキシニリヤン 千四百九十年
- 查理斯五世 九十五年
- 兼西班牙王
- 非耳難多二世 先帝ノ弟
- マキシニリヤン二世
- 非耳難多二世 千六百四十八年

い高波を乗越く。  
 萬里の旅ヲ利を計  
 王國を富むる和業  
 の都ハ海牙又の府を。  
 安特提全國乃人別

議と結び維士發  
 里中於て各國大  
 集會

- レポルト帝 千六百一十三年
- 查理斯六世 千七百一十七年
- 馬里德黎散帝
- 查理斯七世 千七百一十七年
- 法朗士一世
- 法朗士二世 千八百一十八年

熱針僅少く四百萬  
 尔そ是くされや。亞  
 細亞印度の海象を。  
 數箇所保ちて總產  
 を分つ出張の領多し。

一 世帝の爲小屢  
破ら且和議と  
講むの後の彼  
威は却制せら  
日耳曼帝の位と  
廢止爾後基地利  
帝と稱せり  
○普魯西プロイ  
政體君民共治  
普國の日耳曼列國

國民清きを好む  
體壯健し潔く文  
字醫學箱大工徳子  
の器械や織物その他  
國よりはぬ方をあ

の中巴即丁堡侯何  
痕索勒其祖先  
り千四百年間日耳  
曼帝司スモン  
帝の封さる所あり  
久しく列侯の内小  
在り一が非理特維  
廉の時教法改革の  
乱小因て更小其領  
地を擴む千七百年

南より隣る白耳義を  
元和蘭の分業(國)出店  
をのしるゝん獨立ちら國  
旗を揚ぐ王貝之勢乃  
数の品物細工物多き

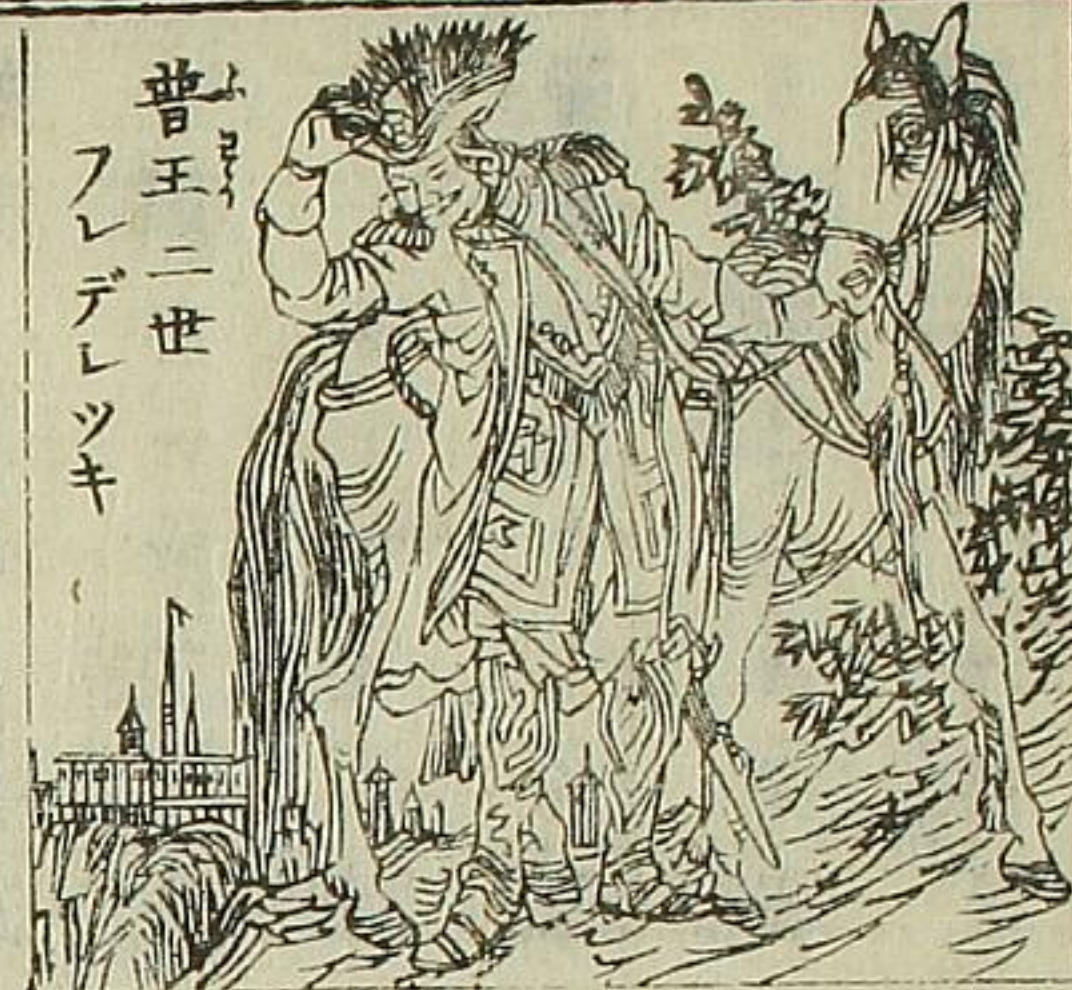
代其子菲哩特一世  
 小至り終小王国と  
 あり嗣を菲哩特二  
 世父祖小勝きて文  
 武兼備の英名一世  
 小輝き終小歐洲強  
 國の一と称せらる  
 馬里德黎散女子小  
 小塊國の位を踐  
 小當り塊國を撃

其土地の能道り。勤  
 るある。支配人手  
 代小者より至るまで。  
 游惰くく。我  
 夫も。君民共治鬼

西里西と攻取り又  
 歐洲各國の大兵と  
 七年の間連戦して  
 終小尺寸の領地を  
 縮む事なく和儀  
 と講むる小至り  
 千七百九十五年波  
 蘭國の乱る。小當  
 り塊國魯西亞の兩  
 國と共小之を込

外笑ふ。門。其輻輳の  
 不魯捨拉斯。其次  
 の。府城。恩活畢。全  
 國地勢平。其南界  
 其家を。其候





普王二世 フレデリック  
三分一と各領地を  
増加より千八百年  
代の始の普國佛帝  
拿破崙の爲に敗軍  
一領地大半を失ふ

温和より穀物菓樹の  
実よく熟し。港河筋  
縦横ふ交へせき街  
衢も。将基の盤石十  
字教宗門帰依ん

ひしと佛帝普國中  
大敗せるに當りて  
各國と共に兵を起  
して佛軍を破り興  
都維也納に於て大  
會議の節舊領復そ  
るを得たり近代普  
國更に富強ゆして  
文武其盛りと極め  
此期に當り宰相

盛るる昔を記す連  
國都より本海陸者  
沿革古今の擾亂も  
多く領地を失へり  
北より近傍海中の

トビスマルク日耳  
曼を混一せべき機  
會を洞看し千八百  
六十六年以太利と  
相結びて日耳曼各  
邦を平げ終つ盡く  
埃國の大軍を打破  
り勢ひ次第小各邦  
と合併し終つ佛蘭  
西と異議を生じ和

此のくけく培ふおれ。  
小亞米理の南方と  
西印度海峽の結  
居地は中北極と  
間も近き偏境に在

親破して兩國の大  
戦争となり普國全  
勝を得て亞撒羅來  
尼の地を佛國より  
得たり千八百七十  
一年漸く和儀小及  
び普王兼て日耳曼  
帝の位小登り南北  
合併して遂小一大  
國とあり

青藍國は土地を歳  
の半途より白日少て  
歳の半途より夜陰  
あるをその困其名の器の  
蓋あるをく双べ居る

○佛蘭西クラ  
政體合衆共治

此國上古ハ哥爾と  
名くる野民の地ハ  
ト和蘭及び日耳  
曼の西部と一部ハ  
リ一ガ羅馬の版圖  
ハ屬せしが紀元千  
四百年前佛蘭哥と  
名くる民種來因河

黒白石の象小  
ぶ丁人氏稀小其  
形状牙材矮く細小  
小性來紙く悪ある  
身ハハ漢獵の業を

と渡りて邦土を拓  
けり其酋長美羅威  
の孫哥羅味全國を  
平定せると以て始  
祖の王と稱す紀元  
四百八十一年王都  
と巴黎小定め更ハ  
洋教を奉ト法度と  
立テ漸く開化ハ進  
り

務めて玉に緒を投  
之我人の種数を  
此地をさす古  
より言傳ハ小人  
嶋矮人必是是あら

佛王世系

○哥羅味王 四百八十年

此後繼で王なる者皆暗弱なり

王家の推衰ふ

○北比諾爾布力王

佛国の推臣加爾

禄馬徳の子紀元

七百五十一年王

位と禪り受く

正港を以て北討ひ

友を歐土に瑞典挪

耳面と融あるを合

きく一の民政を治む

る君乃交代を回す

○查爾禄曼帝

先王の子此時四

隣と蠶食し廣大

の地を領せり昔

羅馬を除くの外

此の如き至大至

強の邦國と為る

者あらむ人民尊

んで大帝と稱す

紀元八百年小在

例と志し終り来

都を士篤恒城西府

小あるを基督亞尼

勝王者ら奴隷にひ

聖夫より功の物に乃

○路易一世  
一千七  
二年前

此時三大邦國と  
あまう即ち佛蘭  
西以太利日耳曼  
是あり

○查爾祿二世 八百八  
十四年

○巴黎候ユードス

○查爾祿三世 九百二  
十九年

○武額加頌多 九百八  
十七年

知る處乃文字の徳  
小八る學子校書院教  
多あり國民形體大  
あらしむ心誠実なり偽  
らば飾らむ禮儀

嗣王數世此間お  
在り皆豪強あり

○查爾祿四世 千三百  
三十四年

○尾羅義斯候 非立  
六世

此年代英吉利王  
義徳尾三世佛國  
小攻入り佛兵屢  
々敗績是

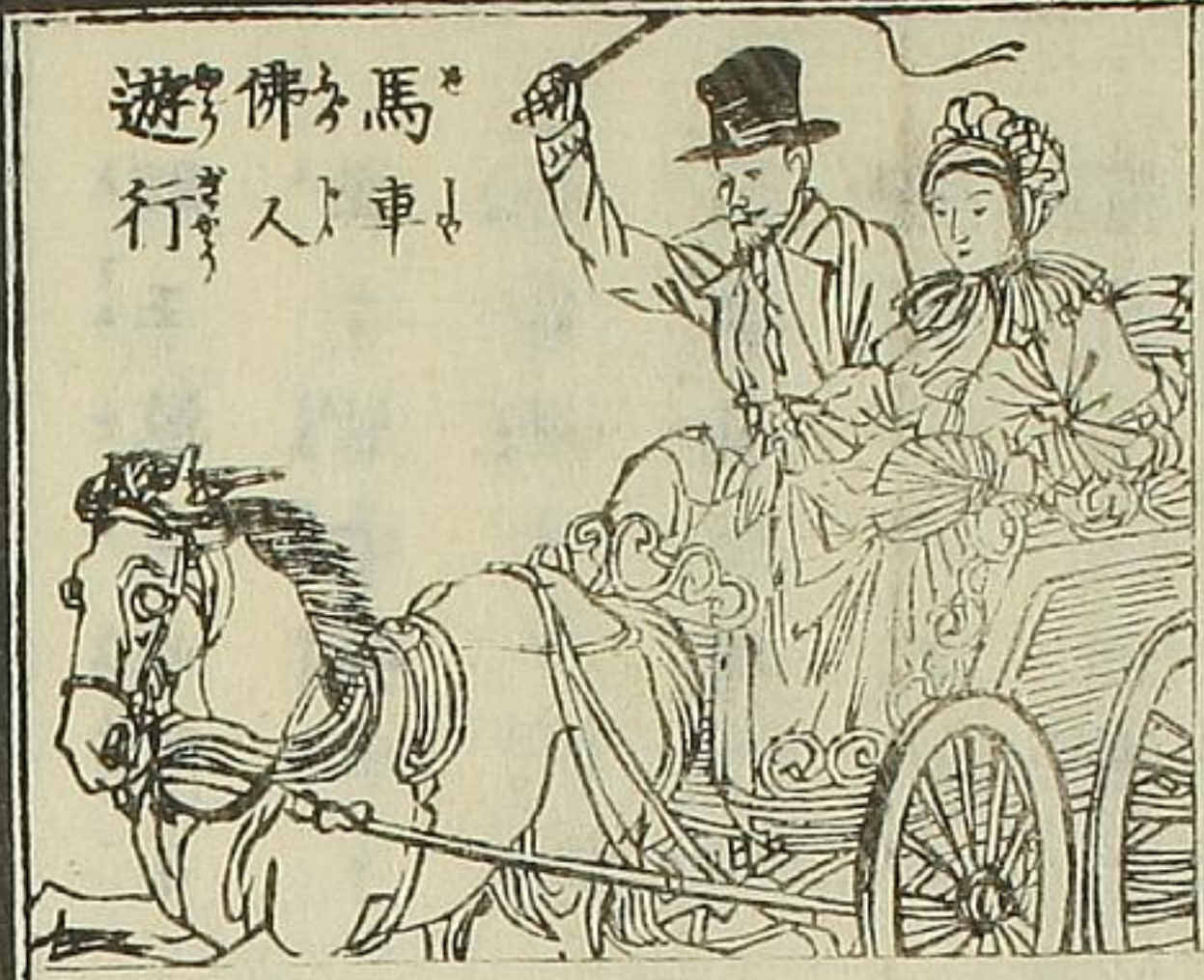
○約翰王 十三百五  
十六年

英兵と戦ひて大

亭々々々々々々々々々  
繪を好む健石  
を本とする性あり椰  
耳回能土地多典國  
と教禮衣念土産物も

敗一遂に擒みせ  
らる

○加爾祿五世  
此代英兵と掃ひ



考らざれば律法は  
おろしうらざるを又あ  
る。西に小島の教ある  
を總て名づるありと  
祿法騰水に特し

邦土と回復する

○と得たり

○加爾祿六世

此王暗弱ゆ

英兵の侵する

○查爾祿七世 二四百年代

英兵復政す

小佛國を解し

皆英の蠶食する

所とみらんとす

湧く潮漲る渦巻く  
楫とる舟を回復す  
鯨も愛を過ぬまに  
水に激す死する  
と我も小島竟の柱とす

ろ子勤王の兵民  
間小起り英兵と  
掃山全國奮小復

○路易十一世

○查爾祿八世

○路易十二世

○法郎士一世  
千五百十九年

○查爾祿九世

此代千五百七十

雪候も四時より雪消  
去冬も氷の凝結び  
雪は山後より納乃  
旌の鞆皮冠皮裘雪  
車雪鞋と足掻き

二年教祖祭日の  
曉巴理子於て新  
教の徒と悉く暴  
殺す

○不爾奔公顯理  
三世

○顯理四世  
十六百

英俊大度ありて  
人望あり惜びて  
暴徒の爲に暗  
殺せらる

多くはよき名を快鹿を  
捕く馬の背より代つ  
屠りて肉を食ふ  
乳を絞るく常小  
飲皮を存り其筋ハ

○路易十三世

○路易十四世

千六百四十三年  
位小即も在位七

十三年百事華美

盛大と尽し富國

強兵奢侈と極む

○路易十五世 千七百

○路易十六世 千七百

國內大乱共和黨

弓弦とありく山嶺を  
生業のあり他のも

あり

英吉利國を佛蘭

西も僅小海を隔く

蜂起して國王と

祇貴族僧侶と

屠り歴代赤曾有

の暴戾と極め激

徒終小政權と握

り合衆政治とを

○拿破崙第一世

卑賤より出千古

無双の英材と以

て佛國の帝位を

多る此國をさざら五

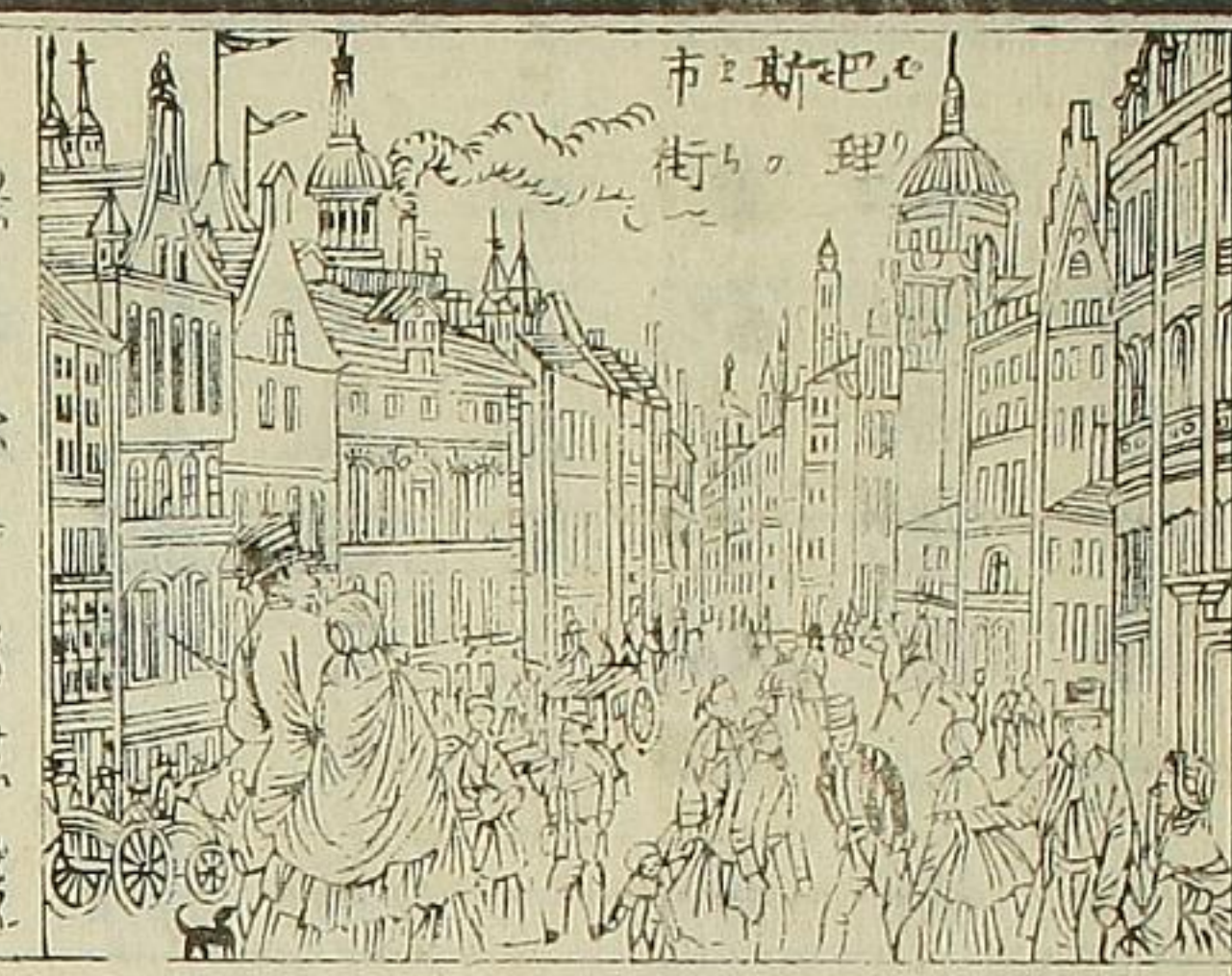
大洲大洋洲の果ま

ぶる領地あらざる

處あり交易をすぬ

國をさす富小強兵





昇り兵威強盛殆ど歐洲の大半と  
屬し各國之を懼る  
事と虎の如く

軍艦を千艘  
並代を浪り船を  
檣を地球の軸と喻  
るん三土より分つ大略  
の英吉蘇各愛蘭を

く従つて全洲と  
混一せんとする  
小至り魯國の侵  
入して大敗せし  
より勢ひ折け各  
國の連兵と戦ひ  
遁して巴黎に入  
る列國踵いて之  
と圍と合議して  
拿破崙と地中海

合勢を之とく大貌  
烈顛又英吉利と名  
づけたる人口凡三  
萬居地は民を合算  
する二億萬あり

世界地理  
卷三

のエルバ嶋小配  
一先王の弟と立  
て路易十八世と  
名く時中十八百  
十四年あり此翌  
年の春小至り拿  
破崙潛小エルバ  
嶋と道と出て忽  
ち兵と集め直ち  
小巴黎小逼り國

千里あり。深き其智  
の海乃底界を知ら  
きぬ千方に新舊の  
の沖を越え格物究  
理天地を。玻璃の壺

王と逐ひ再び帝  
位小昇ると雖も  
列國の大軍之小  
向ふ佛軍終小敗  
走も各兵再び巴  
黎小攻入り終小  
佛帝の位と廢し  
遠く亞非理加の  
孤嶋三厄里那小  
流し再び路易十

り縮み込ん外より  
思ふるを斯やらん全  
國首都の倫敦府。  
その勢も乃素状  
る世界第一家並の

世界地理  
卷三

七身者品  
卷三

八世の位と復し  
漸やく兵と解ゆ  
至きり



三階五層建列  
街ふ密に音無く  
路次乃通ひも廣  
やのち新端をと  
傳ふ傳信機密相

- 路易十八世
- 查理斯十世
- 路易非立
- 路易拿破崙三世
- 拿破崙一世の甥
- 子して先王の代
- 騷乱ふ因て合衆
- 政治の大統領と
- あり後人民の投
- 票を以て終り帝

引奉れ日此眺めん  
斯と多る年あり  
鐵沙以直路を東ぬ  
く走る蒸気車あり  
空を飛連るも度あり

世界都路  
卷三

七世... 者... 品... 卷三

位不登り非常の  
英材と以て国威  
を輝く一兵力と  
以て境界を東  
廣め強盛殊と歐  
洲の盟主たるが  
如く然る小普國  
と不和の議と生  
じ戦ひて利あく  
終小將卒と共小

乃秋の風情を  
只八船あきし  
あ里驛合り  
去發煩のそる  
之坦米斯の河

普軍小降きよ上  
り本國合衆政治  
と建て地と裂き  
償金と出して普  
國と和議と講じ  
于時一千八百七  
十一年正月八日  
あり

援く長橋のほ  
自在に終夜  
の燈火町ふ  
渡る不夜城の  
樓閣壯麗乃盛

世界部路 卷三

○英吉利大ブリタニヤ  
政體君民共治

此國の大西洋北部の東隅に在る二大嶋あり上古の土人とブリトンと名く故に大貌利顛とも云羅馬の總督セサルの時始て此國を征し次て羅馬の屬國とあり後數百年と經て羅馬の勢ひ

覽ふ庭園ふ蒼蒼たる社の奥深き林ふ繁る事ある葉影友の汲みし流水めど

衰へし此歐羅巴各國の居民大に小住ひと處々小遷り獨逸より移りし民土人と平げ土地を領し次第に分きて數多の諸候と為まり紀元八百二十七年小至り七諸候の内

耳八江と交り新易き事目より新しきある心ふ并く新多知識の道の地はれ其の自然

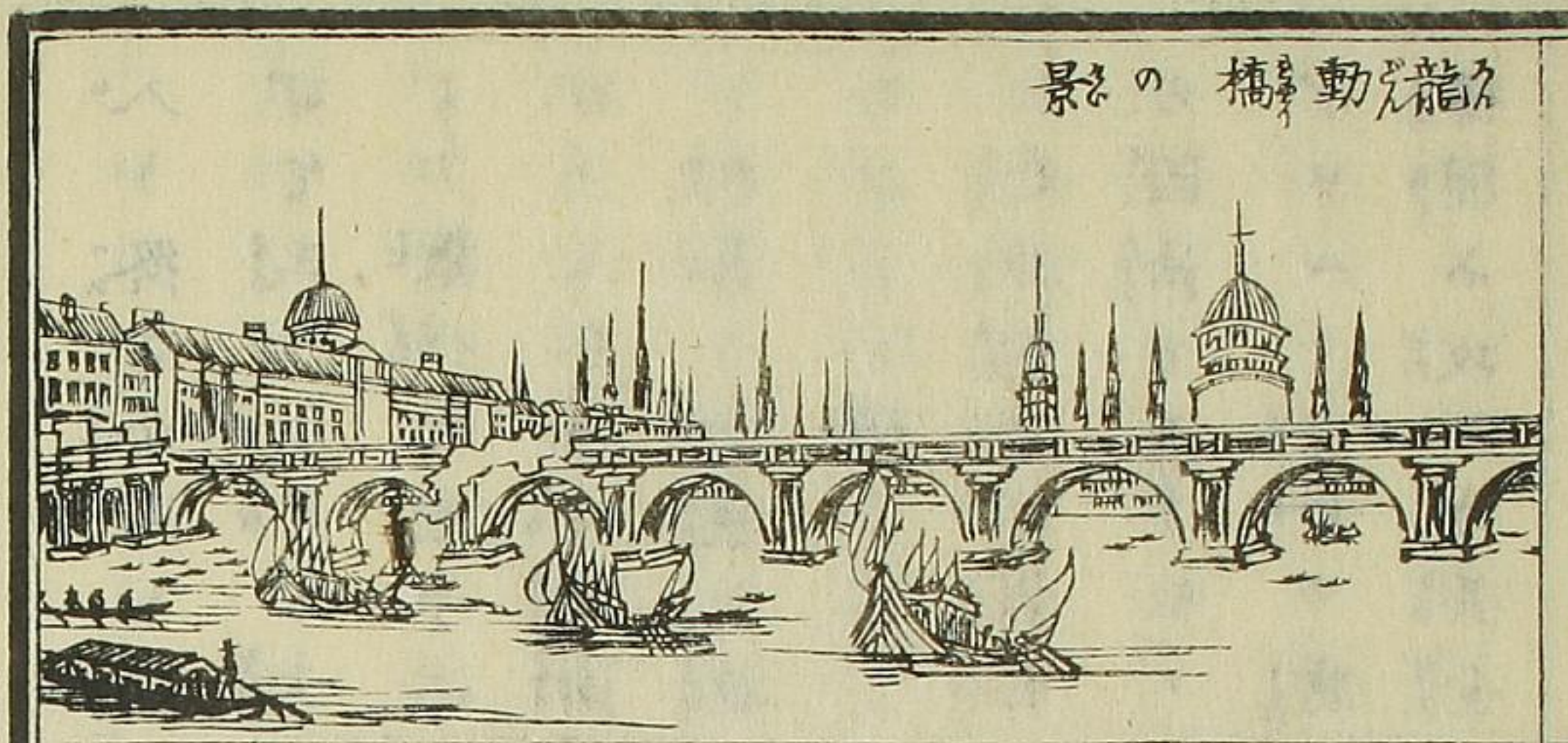
国内と一統を其後  
連国人の土地を奪  
其領地を歸せり  
故の国王の子エド  
ワルド王位を昇り  
かど威令国内を加  
ふるごとと鉄を千六  
十六年佛蘭西の諾  
曼的を領せし  
ルレム候此國を攻

と廣く自然の中  
に情を活計乃大  
利ありあらしき活  
を凌ぎて走る意  
氣は君と民と法

入り終る全國を平  
びて王位を昇る夫  
より数代を經千二  
百十五年の此國法  
を改革し王權を擅  
ふるとを得ざら  
む是君民共治後世  
の國法とありぬエ  
ドワルド三世の時  
佛國を攻入り其全

天子合于治平の國  
乃政事四海足  
美玉と親む復乃  
表裏極る其意  
ありあし

龍動橋の影



國を平定せんとして前後九十餘年屢佛兵を  
 破りたりといへどもへヌリ六世の内乱に因  
 り盡く佛國の領地を失へり後教代を經て  
 千五百五十八年女王エリサベス賢明おし  
 て航海貿易海軍を盛んおし海外の属國頗  
 る増加せり千七百七十六年「ジョージ三世  
 の暴政おしり亞米理加洲の領地背て合衆  
 國とあふ今代の女王「ヴィクトリア支那を  
 攻て彼領地を得り其版圖其富強世界中  
 小冠たり

明治五年壬申仲夏

# 回春樓藏

著述

假名垣魯文

浄書

澤菱潭

首書

平田思成

古今圖書集成

七  
卷三

畫工

惺々曉齋

彫工

村橋昌三郎

東京本石町二丁目角

萬笈閣 江島喜兵衛發兌

即此五十年中其良

東京書肆

萬笈閣

枕屋喜兵衛製本書目

繪入世界都路

假名祖魯文著

全六冊

地球六大洲各國の事情都府の景状名所舊跡等と挙て我  
國徒米の都路紀行の概ひを綴り、舩載雅俗と混交し童蒙婦  
女を以て萬國の形勢を知らせしむる能くせんことを要し、首  
書の繡像を加へたる一大新書あり

地學圖解

鴛巢清廉譯

近刻

繪入全三冊

此書の地球の惣論と始とて各國地形の大小、氣候の遲速都  
鄙の盛衰物産の多寡動植の種類に至る迄、悉く漏れを蒙らぬ  
坐して万里の遠邦と有即し、國体の可否を察し、机上の惑星  
ヲ載テ開化の通と論せしむる實に方今必用之書

公版目錄

萬笈閣



開知新編 橋八貫一譯 繪圖八 全八冊  
同 薄用 撮 快入 二冊

文明開化ト稱スルハ何ゾヤ先開知ノ一端ヲモテ緒トス格物ノ開  
知ハ人道ノ大基本ニシテ理學ニアリ此書ハ童蒙ヲシテ開知ノ要ヲ  
示ス但シ讀易スク諭シ安キヲ專ラトシ地球上ノ事體普ク纂録  
シテ童思ノ知識ヲ開カントスルノ急務ヲ報知セリ

西洋水利新説 若山儀一譯 圖入 全二冊

同 附録 全 全一冊

此書ハ農業集成及ビ諸西哲ノ原書ヲ參譯スル者ニシテ水利ノ原  
由水濕ノ度ヲ檢察シ土地ノ高低ニヨリテ水生ノ涌出スルヲ理シ或ハ  
濕地山地雜和ナシ土質粘地金石鑛穴等ノ水ヲ疏通スルノ術ヲ示シ  
溝渠ノ種類及泄水器具等ヲ説タル農家要務ノ寶書ナリ

西洋航海新説 中井櫻州著 全二冊

此書ハ坐シテ大洋中ニ在ガ如ク星纏風土氣候ノ變ヨリ政事民俗  
器械物産等ニ至ルマデ海外各國ノ事情ニ於テ巨瀾サズ且彼地ヲ  
目撃スルガ如ク實ニ開知ノ最大奇書ナリ

東洋史略 岡田輔年著 全二冊

此書ハ東洋ノ新世界北亞米利カ合衆國富強繁盛ノ今日ニ至ルノ事業後テ其部中  
風土物産學オテ貿易政體軍備全整ナルヲ悉ク原書中ヨリ採卒キ其証文  
省畧ニ過タリト雖摘要タル大関目更ニ條節數卷ノ類書ニ勝レルヲ遠

農家必讀 大藏永常著 全三冊

此書ハ近世ノ農學家大藏老人多年經驗耕作ノ實地ニ涉リ田圃倍養  
精粗ヲ撰ビ豊凶ニ因リテ注意セシムルノ寶鑑タリ凡我國土ニ耕ス者  
此書ニ眼ヲ下テ以テ耕作心ヲ用ハ其益一粒万倍ノ功ヲ奏セトモ又難カト爲

西國立志編

中村敬太郎譯

全十一冊

自由之理

中村敬太郎譯

全六冊

天然道理圖解

田中大助著

全三冊

窮理隱語

清原道彦著

全二冊

此書ハ手とりて窮理の問答もけり隠語とあり一画圖を加ふ  
訓蒙のたより作らる親記ある要書あり

窮理智環

清原道彦著

全三冊

此の書の窮理の大畧を括論して圖を加へ且行草とて大字と書一  
兒童の誦讀ハ勿論習字の助とあは書あり

化學原論

渡邊越太郎譯

全三冊

通俗窮理の叢

全五冊

此書ハ手近き西洋窮理を平假名繪入りて  
かゞゞ童蒙婦女子に分解安かりし人々爲し著せし書なり

數學入門

橋爪貫一譯

全八冊

一ノ卷 加減乘除 二ノ卷 分數及小數 三ノ卷 比例法

四ノ卷 開平開立 五ノ卷 對數 逆刻 六ノ卷 天算上 逆刻

七ノ卷 天算中 逆刻 八ノ卷 天算下 逆刻

此書ハ洋算ノ階梯ニシテ我國算ヲ了解セザル者ト雖モ此書ニ  
因リテ學ブトキハ其大略ヲ得ルニ至レリ曾テ國算ト彼我ノ區別  
アルモ道ヲ得ル時ハ同一ナリ洋算ノ難易ハ此書ヲ披テ推知ベシ

改正 度量考摘要

橋爪貫一譯

全一冊

此書ハ我彼内外ノ度量ヲ比較シテ專ラ商法ノ便利ナラシム都テ  
立積長短ノ以位ハ高個ノ急務タレバ讀ムンバ有ベカラズ

英語箋

石橋政方先生譯

全二冊

此書崎陽石橋先生英人ト對話多年經驗日要急務ノ語箋ニシテ語  
學ノ初心必讀大易有用ノ物ト云ベシ

全改正 增補

便靜居主人校訂

全二冊

此書ハ石橋先生ノ先トニシテ大江カ初學ニ便クシテ今度鳥民ノ增補ニ  
伏テ猶有益ノ書販ヒリ且卷尾ニ萬國ノ地名箋及ヒ詞早々區別表ヲモ附シタル  
ハ化尻ノ活世ノ童子輩分産モ坐右ヲ歎バカラス普ク買ニ見タマナリ

和譯 英吉利小字典

一名小辭書  
青水輔清譯

逆刻

全一冊

此書其實ハ洋土歴史中ニ關係ヒル英語ニ添ヘテ和譯セシ小字書ナリ  
抑歴史文ノ綴字微意アルガ故ニ生徒是ニ悩ノリ故ニ此書ニ因リテ彼  
史ヲ學バ教師像ヲ去ルニ同ジトセン

横文字早指南

全一冊

此、模範ハ我童蒙等ノ俗ニ清書草紙ト号クル者ノ如ク、本中、洋字ヲ白字ニ刻シ真草行ヲ分テリ初學洋字ヲ習ハント爲ス此、模範上ニ白紙ヲ覆ヒテ模寫セバ其筆法ヲ得ルモ又速ナリ

英字三體國畫 稿爪買一著

全一冊

企 名 頭

全

企 苗字盡

全

此、三書ハ我國內地名苗字等ヲ洋字ニ當テ片假名ヲ添ヘ我彼通倍ノ一助トス内外郵便必用ノ者ニシテ異人取引ノ商家貯エズンバ有ルベカラズ

英學教授

全一冊

此ノ書僅ニ二卷ニ過ザルノ小冊ト雖トモ贅ヲ省キ樞要タルヲ詳セバ初學ノ階梯是ニ因リテ足レリト爲ベシ

英語 緞字書

一名スベールリング

全一冊

同 二編 三編 追加

此ノ書ハ英學ノ學師ウエブストル著述ニシテ文字ノ綴方音節ノ變化ヲ知シムルノ書ナリ

英文典字類

格賢勃斯氏 西先生原本

全二冊

英學捷徑

阿部米象譯

近刻 全一冊

英吉利 獨逸 和玉篇

西村周次郎譯 中村順一郎譯

近刻 全一冊

英獨兩學ハ今日ノ急務ニシテ學バズニハ有ベカラズ此書兩國ノ終  
字ニ和譯ヲ添工部ヲ十三門ニ別チタル三體ノ節用ナリ

普語箋

一名獨逸語箋 中村雄吉譯

全二冊

ガ今獨逸學日耳曼列國ヨリ西洋諸國ニ行ハレ始ト英學ニ併立  
セントス此書ハ普國急務ノ語學ニ和訓ヲ施シ初學專問ノ摸  
範トナリ生徒常ニ傍ラテ退ケザルノ要書ト云ベシ

獨逸單語編

春風社中著

全一冊

獨逸單語篇和解

中村順一郎譯

全二冊

此和解書ハ獨逸單語編ノ原書ヲ基本トシ是ニ押譯ヲ加ヘタル  
初學階梯ノ導ビキナリ師ニ屬キ學ブニ易キヲ旨トセシム

同 會話集成

西村周次郎譯 中村順一郎譯

全二冊

獨逸語學對客ノ專ラ是トスルノ會話ヲ集メ悉ク和譯ヲ加エ語  
學ヲ要トスル人ハ為ニ物セルノ書是ニ比スルハナシ

同 階梯

中村雄吉譯

近刻 全一冊

歐洲ノリイドルハ彼國訓蒙ノ緒ニシテ方今我國ノ婦童專問ト  
スル所ナリ則チ此書真草ノ綴字ニ畫圖ヲ添タル初學ノ早業ナリ

獨逸文典字類

春風社中譯

全一冊

同 文典直譯

カトリ氏原水  
中村雄吉譯

全二冊

同 熟語集

大熊春吉譯  
宮口祐平譯

全一冊

和譯獨逸字典

明石志津廣譯  
明石雄七譯  
河村省三郎譯

全一冊

西洋料理通

假名垣魯文編輯

全二冊

此書ハ横濱在留の英國コックの手記ハ原本世に稀あり卷中  
彼上の食料製法の原因と挙煮汁と三等小區別而て肉類野菜  
至るまで極細加減と経験より西洋料理家必讀の珍書あり

萬國西洋膝栗毛

假名垣魯文著

中本十五編揃 全四冊

同 拾遺

込刻

此釋史ハ三世の弥次郎北八等が横濱在留の事情と發端として  
通商に附屬英佛の蒸氣飛脚小乗組の航海の途中支那  
印度の地を例り滑稽と盡す笑語専ら目今の流行を穿らるる  
新奇妙案の戯作あり

西洋噺會

假名垣魯文著

込刻

全五冊

此小説ハ故曲亭馬琴が質屋ノ庫トール読本の弊一徹の横濱の押原  
歐羅巴諸州の器械衣類異形の物集會りて人語と幾一各国好しと語り  
休事情を演と以趣向に編章戯文と以綴と雖確實樞要と注意一童叢を以て  
開化進歩の一方今風の滑稽辭史あり看客發見の期を待て笑覧を希ふ

河童胡瓜遺

假名垣魯文著

全二冊

福澤先生の窮理圖解を倣ひ被標目を假て部の趣向に当世の事情を穿らるる抱腹絶倒の滑稽書あり然る其實の教諭の一端は出さ

窮理外傳

風來山人遺稿  
假名垣魯文披關

合本 全一冊

此書の風來山人の遺稿中にて往時の舊作と假名垣の筆頭九十餘年の現今の叛せを其事戯中の戯にて又實中實中遊ると私せん

# 知新館藏板目錄

理學初步

翻譯

前後

三冊

英和字典

知新館社文同譯

全一冊

此書ハ英人ニユウクル氏ノ字典ノ本トシ傍ウエブストル氏ノ大字典ニ就キ發声ノ調符ヲ表シ勢テ應用ニ切ナルノ語ヲ譯出シ且翻譯ノ後事スルノ人ヲシテ搜字ニ使シラシメシカ為英漢字典ノ譯字ヲモ採用シ大ニ進歩ノ裨益ヲ得セシム加シ他ノ對譯字書中トスレバ原語譯字數最モ多シト雖モ字體精密ナルヲ以テ諸般ノ繁ヲ尙キ製本ノ體裁西洋ニ倣フ以テ提携ノ勞ナク實ニ對譯書中ノ巨擘ト云ヘシ

西洋易知錄

河津編輯助祐之先生譯述

各二冊

後第一快至四快 出版

此書ハ西洋各國歴史、治亂興廢ヲ記シ、傍政体ノ得失ヲ述タル物ニシテ、彼ノ事情ヲ通知セント欲スル人ハ必ス座右ニ可備ノ珍書ナリ

英國史略

河津編輯助祐之先生譯述

初編 全二冊

同

作樂戶癡鶯先生譯述

二編 全二冊

此書ハ英國歷代事情ヲ述タル物ニテ、河津祐之先生其西洋易知錄ノ譯アリトモ其原書ニ英國ノ事情ヲ載レバ、曾テチヤムフルハ、ドクイニ西民ノ著書ニ就要領ヲ譯出シ其遺漏ヲ拾補スセバ、易知錄ト並セ見ルベキ書ナリ

西俗一覽

河津編輯助祐之先生譯述

全一冊

此書ハ西洋各國ノ人情風俗、身体衣服、書通談話、往來會食、婚禮、葬禮等、一覽ノ下ニ通知トシ、其珍書ナリ

海外政談

近刻





大日本

書肆

西京三條通り塚田西入

西京寺町通り松原上

西京三條通東洞院上

西京四條通り寺町上

大坂心齋橋南壹町目

大坂心齋橋通安堂寺町

大坂心齋橋筋北久太郎町

大坂心齋橋筋安土町南入

大坂心齋橋筋博勞町

大坂心齋橋筋北久室寺町

大坂心齋橋筋南久室寺町

出雲寺文治郎

勝村治右衛門

村上勘兵衛

田中屋治兵衛

敦賀屋九兵衛

秋田屋太右衛門

河内屋喜兵衛

河内屋和

河内屋茂兵衛

河内屋源七郎

迫江屋平

伊丹屋善兵衛

大日本

書肆

東京日本橋通一町目

東京日本橋通二町目

東京日本橋通三町目

東京芝神明前

東京芝神明前

東京芝神明前

東京室町二丁目

東京大傳馬町一丁目

東京横山町一丁目

東京横山町三丁目

東京浅草草芽町三丁目

東京本石町三丁目

須原屋茂兵衛

山城屋佐兵衛

小林新兵衛

岡田屋嘉七

和泉屋吉兵衛

和泉屋市兵衛

紀伊國屋源兵衛

三家村佐平

出雲寺萬治郎

和泉屋金石衛門

須原屋伊八

梶屋喜兵衛

